

## 平成 21 年度当初の外来魚生息量推定

西森 克浩

### 1. 研究目的

琵琶湖の外来魚生息量を推定することによって外来魚駆除事業の効果を評価する。

### 2. 研究方法

ブルーギル生息量をコホート解析法によって推定し、オオクチバス生息量をブルーギル推定生息量と駆除外来魚のオオクチバスとブルーギルの割合から推定した。

### 3. 研究結果

平成 20 年 4 月から平成 21 年 3 月までの滋賀県事業による外来魚駆除量は、総量 437.7 トン、南湖が 294.7 トン、北湖が 143.0 トンであった(表 1)。

表 1 平成 20 年度の外来魚捕獲量(トン)

	琵琶湖	南湖	北湖
外来魚	437.7	294.7	143.0
ブルーギル	339.5	276.9	62.6
オオクチバス	98.2	17.8	80.4

魚種別内訳は、ブルーギル、オオクチバスの順に琵琶湖全湖で 78%、22%、南湖で 94%、6%、北湖で 44%、56%であった。

平成 21 年 4 月当初の外来魚生息量は、琵琶湖全体でブルーギルとオオクチバス合わせて、1408 トンと推定された(表 2)。

表 2 年度当初の外来魚推定生息量(トン)

	外来魚	ブルーギル	オオクチバス
21 年度	1408	1102	306
20 年度	1497	1090	407
19 年度	1529	1219	310
18 年度	1636	1295	341
17 年度	1740	1413	327
16 年度	1825	1505	320

平成 20 年度以前の値は、それぞれの年度の滋賀県水産試験場事業報告の値である。

外来魚生息量は、生息量推定を始めた平成 16 年度以降、減少傾向にあるが、それはブルーギル生息量が減少傾向にあるため、オオクチバス生息量は増減はあるがほぼ横ばい状態にある(図 1, 2)。また、ブルーギルについては生息量の減少傾向が鈍化している。

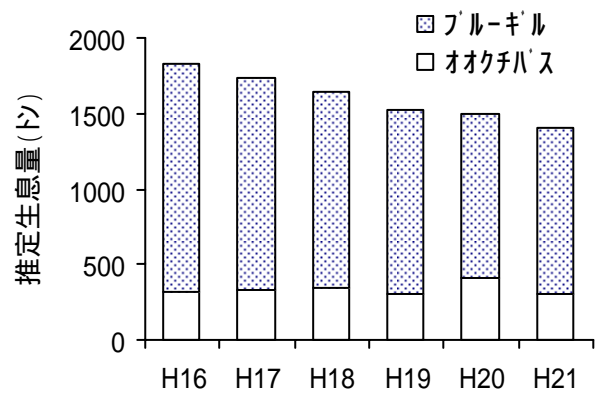


図 1 外来魚推定生息量の推移

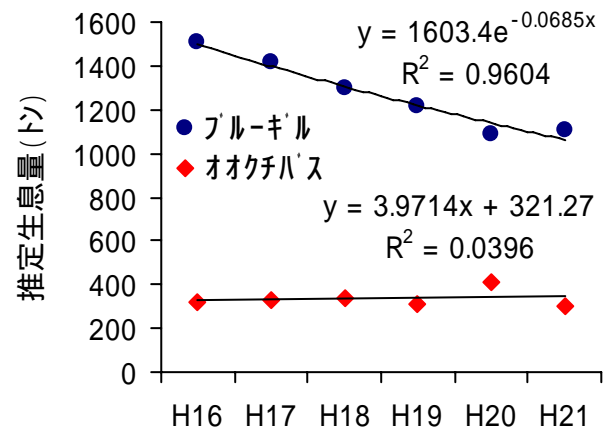


図 2 ブルーギルとオオクチバスの推定生息量の推移

今後、外来魚生息量を減少させ続けていくには、オオクチバスの効果的な駆除手法の開発と、外来魚の駆除や繁殖抑制の強化が必要である。